

研究発表会開催通知

(昭和 64 年 1 月 15 日～2 月 28 日)

研 究 会	日	時	会 場	備 考
情 報 シ ス テ ム	1 月 17 日 (火)	13 : 30～17 : 00	機械振興会館	前号参照
マルチメディア通信と分散処理	1 月 19 日 (木)	10 : 00～17 : 00	同 上	同 上
デ ー タ ベ ー ス・シ ス テ ム	1 月 19 日 (木)	10 : 00～17 : 00	九 工 大	同 上
自 然 言 語 処 理	1 月 20 日 (金)	9 : 30～17 : 00	同 上	同 上
文書処理とヒューマンインタフェース	1 月 20 日 (金)	13 : 30～17 : 00	機械振興会館	同 上
ア ル ゴ リ ズ ム	1 月 25 日 (水) 1 月 26 日 (木)	9 : 30～17 : 20 9 : 30～17 : 20	東 北 大	同 上
計 算 機 ア ー キ テ ク チ ャ	1 月 26 日 (木)	13 : 00～17 : 00	機械振興会館	同 上
コ ン ピ ュ ー タ ビ ジ ョ ン	1 月 26 日 (木) 1 月 27 日 (金)	13 : 10～17 : 05 9 : 30～18 : 00	京 大	同 上
ソ フ ト ウ ェ ア 工 学	2 月 2 日 (木) 2 月 3 日 (金)	9 : 00～17 : 50 9 : 00～17 : 15	沖縄電信・電話会館	下記参照
プ ロ グ ラ ミ ン グ 言 語	2 月 10 日 (金)	10 : 00～17 : 00	筑 波 大	同 上
情 報 学 基 礎	2 月 20 日 (月)	13 : 00～17 : 00	機械振興会館	同 上
設 計 自 動 化	2 月 20 日 (月) 2 月 21 日 (火)	13 : 30～17 : 00 9 : 30～17 : 00	同 上	同 上
マイクロコンピュータとワークステーション	2 月 21 日 (火)	13 : 30～17 : 00	同 上	同 上
グ ラ フ ィ ク ス と C A D	2 月 23 日 (木) 2 月 24 日 (金)	13 : 00～17 : 00 9 : 00～17 : 00	日 立・中 研	同 上
オペレーティング・システム	2 月 24 日 (金)	10 : 20～16 : 45	機械振興会館	同 上
コ ン ピ ュ ー タ と 教 育	2 月 25 日 (土)	10 : 00～17 : 00	九 工 大	同 上

◆ 第 64 回 ソフトウェア工学研究会

(発表件数：25 件)

(主査：花田収悦，幹事：落水浩一郎，紫合 治，春原 猛)

日 時 昭和 64 年 2 月 2 日 (木) 午前 9 時～午後 5 時 50 分

2 月 3 日 (金) 午前 9 時～午後 5 時 15 分

会 場 沖縄電信・電話会館

(那覇市楚辺 1-14-12, 那覇空港よりタクシー 20 分, または, 開南行バス：那覇高校前下車 (25 分), 徒歩 10 分, Tel. 0988 (55) 5741)

議 題 2 月 2 日 (木) 9 : 00～12 : 15 (5 件)

- (1) ソフトウェアの信頼性モデルの一考察 — 層別探索モデル — 松尾谷徹 (日電)
 [概要] ソフトウェア製品の出荷後のデータの結果, 層別した探索モデルが適合することをモデルと共に示す.
 (2) エラー発見のタイプを考慮したソフトウェア信頼度成長モデル 込山俊博 (日電)

〔概要〕 従来の S 字形モデルを包含し、パラメータの値によっては指数形の形状にもなる新しいモデルを提案する。

(3) ソフトウェアバグと人間の能力との相関関係について

清野浩一 (NTT 通研)

〔概要〕 人為的障害にスポットをあて、人間のソフトウェア能力とソフトウェアバグとの相関関係について明らかにする。

(4) ソフトウェアパッケージ開発への品質機能展開の適用

武田紀子, 高橋美恵, 鈴木美奈 (三菱電機東部コンピュータシステム)

〔概要〕 品質機能展開の適用例と現状の生産管理 (プロジェクト管理) とを比較し、今後どのように実践するべきかを述べる。

(5) ソフトウェア設計品質メトリクスの検証

平山雅之, 山田 淳 (東芝システムソフトウェア技研)

〔概要〕 ソフトウェア設計の品質を測定するメトリクスについて、実プロジェクトに適用し、有効性を分析したので報告する。

13:00~17:50 (8件)

(6) 自動プログラミングにおける自然語仕様からオペレーションを中心とした表現への変換

白井勝利 (阪大・工), 山田宏之 (愛媛大・工), 馬場口香, 手塚慶一 (阪大)

〔概要〕 欠落情報を含む自然言語仕様をソフトウェアモデルに変換するために、オペレーション中心の表現を考察する。

(7) ソフトウェア工学的観点による第 4 世代言語の分析と評価

古宮誠一 (IPA)

〔概要〕 話題の 4GL の実態を調査した。この結果をもとに、ソフトウェア工学的観点による 4GL の分析と評価を試みる。

(8) 仕様記述構成の形式化

南 祐昭, 米崎直樹 (東工大・工)

〔概要〕 既存の仕様から、一般化・特殊化の操作により、新しい仕様を構成する方法の形式化を行う。

(9) 述語論理に基づく仕様から実行可能コードへの変換

小野康一, 河野誠一, 門倉敏夫, 深沢良彰 (早大・理工)

〔概要〕 述語論理に基づく仕様を、関数形式を中間コードとして、効率のよいコードに変換する手法について述べる。

(10) リアルタイム・ソフトウェアにおけるプログラム仕様記述法に関する一考察

岡本克己, 橋本正明 (ATR)

〔概要〕 プログラム仕様記述法 PSDM における対象システム記述やマルチプロセス, 時間, I/O の取扱いを報告する。

(11) 通信ソフトウェア仕様における制約指向記述の適用法

林 潔, 西園敏弘 (ATR)

〔概要〕 設計の各段階で決まる仕様, すなわち制約をその波及範囲に着目することにより統合化する手法について述べる。

(12) Specifications of Library and Lift Problems in LOTOS

大蒔和仁, 二木厚吉 (電総研)

〔概要〕 プロトコルの形式的記述用言語 LOTOS を用いて Library と Lift の問題の記述を行ってみた。これをもとに、データとプロセスによる仕様記述の比較を行う。

(13) 動作仕様記述の構成法

宇山政志, 米崎直樹 (東工大・工)

〔概要〕 動作仕様を記述する方法として、時区間論理を基とする記述形式の提案と、仕様の検査方法について報告する。

懇親会: 18:00~20:00

2月3日 (金) 9:00~12:05 (5件)

(14) 部品指向の設計支援環境 50 SM

宗近修久, 小尾俊之, 蓮田広保, 松村一夫 (東芝システムソフトウェア技研)

〔概要〕 設計書エディタとモジュール部品, パターン部品の蓄積, 検索, 利用を支援するツールを統合化した設

計支援環境について述べる。

- (15) 実時間システムにおける要求仕様定義とタスク構造の導出 竹中一起（住友金属）
 〔概要〕 データフロー図をもとにした大規模実時間システムの要求定義手法とマルチタスク構造の導出方法について述べる。
- (16) 視覚的プログラミング空間に関する一考察 田原義信, 吉見 信, 平川正人, 田中 稔, 市川忠男（広島大・工）
 〔概要〕 人間の特性を考慮した視覚的なプログラミング空間の構成について考察し、一つの試みを示す。
- (17) 交換システム向き視覚的ソフトウェア開発手法 池田 功, 山根 智, 石井直子（富士通）, 新家 誠（富士通関西通信システム）
 〔概要〕 交換ソフトの設計と試験におけるデータ視覚化手法とこれをベースにした交換向ソフト開発環境について述べる。
- (18) 直接操作による情報提示システム開発環境について 大戸英隆, 辻野嘉宏, 都倉信樹（阪大・基礎工）
 〔概要〕 シナリオを直接操作することによって、イベント駆動に基づく情報提示システムを開発する環境を試作した。

13:00~17:15 (7件)

- (19) ソフトウェア意図伝達支援ツール COMICS 岸本美江, 西田正吾, 後藤卯一郎（三菱電機）
 〔概要〕 ソフトウェアの意図表現のための劇場モデルと、それに基づくツール COMICS について報告する。
- (20) 画面解像度の違いに対するポイント効率の評価について 西中芳幸, 辻野嘉宏, 都倉信樹（阪大・基礎工）
 〔概要〕 ディスプレイの解像度の違いがポイント効率に与える影響を、マウスを用いたポイント手法について評価する。
- (21) ソフトウェア開発用インタフェース sif における作業記述について 中島 毅, 藤岡 卓, 上原憲二, 高野 彰（三菱電機）
 〔概要〕 目的別に対象とコマンドを整理するツール sif における、作業記述の経験とその評価について述べる。
- (22) ネットワーク仮名漢字変換サーバを用いた日本語環境:「たまご」 戸村 哲, 石川 裕, 二木厚吉（電総研）
 〔概要〕 ネットワーク仮名漢字変換サーバを利用して Nemacs での日本語入力機能を提供する「たまご」について報告する。
- (23) Debug Expert System for Switching Systems Software 赤尾由香利セシリア, 土田賢省, 今井恵一（日電）
 〔概要〕 既知情報と不確定情報を扱う、交換ソフトの会話的デバッグ支援エキスパートシステムの説明。
- (24) コンパイル時のプログラム相談システム 大西 淳, 島崎眞昭（京大・大型計算機センター）
 〔概要〕 フォートランコンパイル時のエラーの対処をソースを走査しながら提示するシステムを開発したので報告する。
- (25) ソフトウェアの変更支援—影響箇所の自動修正— 永良 裕, 佐藤康臣, 天満隆夫, 田中 稔, 市川忠男（広島大・工）
 〔概要〕 ソフトウェアの変更にもなう影響を属性伝播により計算し、部品ベースを利用することにより自動修正を試みる。

◆ 第20回 プログラミング言語研究会

（発表件数：8件）

（主査：斎藤信男，幹事：石畑 清，筧 捷彦，徳田雄洋）

日 時 昭和64年2月10日（金）午前10時～午後5時

会 場 筑波大学 大学会館 会議室

〔つくば市天王台 1-1-1, 常磐高速バス（東京駅八重洲口発—つくばセンター行き）：つくばセンター下車（約60分）、バス（筑波大学中央行き）：大学会館下車（約10分）、または、JR（常磐線）：荒川沖下車、バス（筑波

大学中央行き：大学会館下車（約 35 分）、Tel. 0298 (53) 2111)

議 題 10:00~12:00 (3件)

- (1) パターン照合型プログラミング方式の提案

渡辺 坦 (日立・シ研)

〔概要〕 どんな場合に何から何が得られるか、という日本語風記述によるパターン照合型プログラミング方式を提示する。

- (2) 関数型プログラミング

中江信行 (富士ゼロックス)

〔概要〕 Standard ML の拡張 CAM コードへのコンパイラの実現法と仮想マシンのデザインについてのべる。

- (3) 雇用化の概念をもつ図式モジュール言語 DIAL/M

田中 旭, 堀川英明, 田山典男 (岩手大・工)

〔概要〕 抽象データを含む履歴依存モジュールを共同で再利用できる「雇用化」の概念をもった図式言語を提示する。

13:00~15:00 (3件)

- (4) Abstract Symbolic Machine

中村敦司, 山田敏哉, 井田哲雄 (筑波大・電子・情報)

〔概要〕 関数型・論理型プログラムを、ともに効率良く実行する抽象マシンのアーキテクチャについて述べる。

- (5) パターン照合プログラムの変換

赤間陽二, 武市正人 (東大・工)

〔概要〕 関数プログラムの形式的変換によって、素朴なアルゴリズムから効率よいものを導出する手法を提示する。

- (6) 戦略の表明を持つ項書き換え系 A-TRS の実現と評価

布川博士, 古賀信哉, 野口正一 (東北大・通研)

〔概要〕 本発表では、われわれがすでに提案している、TRS プログラム中に陽にリダクション戦略を表明でき、各 TRS プログラムごとに戦略を定められることができる項書き換え系 (A-TRS) の処理系作成の報告、それを用いた A-TRS の評価を行う。

15:20~17:00 (2件)

- (7) Translating term rewriting system to combinatory reduction system

中野 浩 (京大・数解研)

〔概要〕 項書き換え系をコンビナトリリーリダクションシステムに変換する方法を示す。

- (8) BC-chain 表現によるコンビネータ・コードへの翻訳アルゴリズム

加藤 学, 魚井宏高, 都倉信樹 (阪大・基礎工)

〔概要〕 もとの関数式から BC-chain 表現を、時間計算量 $O(n \log n)$ 領域計算量 $O(n)$ で直接導出するアルゴリズムを提案する。

◆ 第 12 回 情報学基礎研究会

(発表件数：4 件)

(主査：藤原 譲, 幹事：有川節夫, 岩野和生, 吉田郁三)

日 時 昭和 64 年 2 月 20 日 (月) 午後 1 時～5 時

会 場 機械振興会館 地下 3 階 1 号室

〔東京都港区芝公園 3-5-8, 地下鉄：日比谷線神谷町, 浅草線大門, 三田線御成門下車, JR：浜松町下車, バス：渋谷－東京タワー線東京タワー, 渋谷－東京駅八重洲線虎ノ門 5 丁目下車. Tel. 03 (434) 8211〕

議 題 特集：語彙解析を通じて情報の構造にせまる

- (1) JIS 漢字補助集合の設定と今後の課題について

田嶋一夫 (いわき明星大・人文)

〔概要〕 JIS X 0208 の利用環境の拡大・変化からその改正を望む声が大きくなり、3 年間の調査研究の上に補助集合の設定案が作成された。その背景を報告し、あわせて日本語の文字をめぐる課題を検討する。

- (2) 自然語による索引語自動抽出システム－国立国会図書館の雑誌記事索引システムの例－

杉山時之, 山口義一, 田村貴代子 (国立国会図書館)

〔概要〕 自動抽出した索引語について語長、接頭・接尾語などを分析、および自然語対統制語の関係を論じる。

- (3) 語彙調査における Ψ 回出現語の出現率分散に関する考察

松岡 潤 (日立マイクロコンピュータ エンジニアリング)

- 〔概要〕 2 回出現語の集合に着目し、母集団での覆内率推定法を述べ、推定誤差の分散の推定法について論じる。
 (4) 医学専門用語の構造解析 小山照夫 (学術情報センター)
 〔概要〕 医学の専門用語における基本となる要素概念から複合概念を形成する構造解析の試みについて発表する。

◆ 第 46 回 設計自動化研究会

(発表件数: 14 件)

(主査: 平川和之, 幹事: 井上隆秀, 川西 宏, 神戸尚志)

日 時 昭和 64 年 2 月 20 日 (月) 午後 1 時半～5 時
 2 月 21 日 (火) 午前 9 時半～午後 5 時
 会 場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室 (所在地は前記参照)
 議 題 特集: レイアウト

2 月 20 日 (月) 13:30～17:00 (5 件)

(1) 高性能 LSI のレイアウト設計法

矢部昌司, 多和田茂芳, 水牧俊博, 清水克姫, 能登千晶, 野村 稔 (日電)

〔概要〕 高性能 LSI のレイアウト設計時に考慮すべき種々の制約を満たす設計法を紹介する。

(2) VLSI におけるフロアプランについて

松本美佐代, 富田常雄, 岡田時仁, 山内貴行, 神戸尚志 (シャープ)

〔概要〕 VLSI フロアプランにおいて重要な配線領域見積り, 未設計ブロックの端子位置決めについて述べる。

(3) ブロック間配線における非スライス構造配置の一配線手法 早瀬道芳, 三浦地平, 山城 治 (日立)

〔概要〕 非スライス構造配置の配線手法と, この配線手法を組み込んだブロック間配線プログラムについて述べる。

(4) ウェーハ集積回路の一配置手法

金杉昭徳, 佐藤真司, 山下公一 (富士通研)

〔概要〕 ウェーハ集積回路に適した効率的な配置アルゴリズムと, 応用例について述べる。

(5) ゲート敷き詰め型ゲートアレイの自動配線 (手法と実現) 山田正昭, 高野みどり, 門脇春則 (東芝)

〔概要〕 ゲート敷き詰め型ゲートアレイの多層配線手法とその実現について, 概略配線と詳細配線に分けて述べる。

2 月 21 日 (火) 9:30～12:20 (4 件)

(6) 統合化セルライブラリデータベース YILD

押切 実, 田村明穂 (ヤマハ)

〔概要〕 標準セル方式自動設計システムにおいて, 複数のツールのライブラリーを一元管理するデータベースを開発した。

(7) ASIC 用対話型セル設計システム SPACE

鈴木五郎, 山本哲也, 浜田亘曼, 岡村芳雄, 加藤真司, 佐藤多加志 (日立)

〔概要〕 マクロ・セル型 ASIC 用に開発した対話型セル設計システムに関して述べる。

(8) 機能図展開システムについて

来山康治, 下出隆文, 横尾 宏, 佐藤貴彦, 島田 章 (沖電気)

〔概要〕 機能図よりプリント基板回路図, LSI 回路図を生成するシステムを開発したので報告する。

(9) プリント基板自動配置への知識利用 大岩陽子, 吉村宏之, 土田雅之, 植村博一, 青江秀雄 (松下電器)

〔概要〕 プリント基板の部品自動配置に設計ノウハウを知識ベースとして取り入れ利用することの効果を報告する。

13:30～17:00 (5 件)

(10) アーキテクチャ設計支援システムにおける知識の利用も評価

竹沢寿幸, 白井克彦 (早大・理工)

〔概要〕 アーキテクチャ設計支援システムにおいて合成される回路の質を向上させるための知識の充実と評価方法について。

(11) ハードウェア記述言語 UHDL

藤沢久典, 藤田昌宏, 川戸信明 (富士通研)

〔概要〕 時相論理に基づく動作記述を導入したハードウェア記述言語 UHDL について報告する。

(12) On the Synthesis of a New Graphical Language

Doron Drusinsky (ソニー)

〔概要〕 グラフィカルな動作記述言語の特徴を示し、これを入力とする論理合成システムについて述べる。

(13) クイックソート回路の代数的記述と制御回路部の自動生成について

北道淳司, 杉山裕二, 谷口健一 (阪大・基礎工)

〔概要〕 クイックソート回路を例に、順序回路の代数的仕様記述、段階的詳細化、制御部の設計自動化について述べる。

(14) 大型計算機装置診断支援方式について 西田隆夫, 西根裕久 (日立), 志賀 博 (日立電子サービス)

〔概要〕 大型計算機の障害検出回路設計支援方式、および装置診断時に必要となる故障辞書の自動生成方式を報告する。

◆ 第 54 回 マイクロコンピュータとワークステーション研究会

(発表件数: 5 件)

(主査: 若鳥陸夫, 幹事: 岡田義邦, 森本陽二郎, 山田 剛)

日 時 昭和 64 年 2 月 21 日 (火) 午後 1 時半～5 時

会 場 機械振興会館 地下 3 階 1 号室 (所在地は前記参照)

議 題

(1) ワンチップマイコンを用いたマルチプロセッサ・システムの試作

御牧 義, 南沢正之 (電通大・電子情報)

上坂達生 (三菱電機セミコンダクタソフトウェア)

〔概要〕 プロセッサ, ROM, RAM, I/O ポートをチップ上に持っているワンチップマイコンを 4×4 の二次元状に結合したマルチプロセッサシステムを試作したので報告する。

(2) トランスコンピュータを用いた応用システム事例

西川晃平, 瀬戸山達夫 (神戸制鋼所)

〔概要〕 トランスピュータを搭載した各種 CPU ボードおよび、それらボードの画像処理, CG, FA への応用例を紹介。

(3) RISC アーキテクチャと SPARC の将来

村野雄一 (日本サンマイクロシステムズ)

〔概要〕 RISC アーキテクチャに基づく SPARC とその各種ベンチマークによる評価, 将来の展開について述べる。

(4) UNIX におけるリアルタイム性の導入に関する一考察

水橋由紀子, 市瀬規善, 古城 隆 (日本電気マイコンテクノロジー)

永作浩之 (日本電気アイシーマイコンシステム), 門田 浩 (日電)

〔概要〕 TSS 型の OS である UNIX にリアルタイム性を入する際の問題点について V60/V70 用 OS, RX-UX/832 を中心に考察する。

(5) Prolog による標準ページ記述言語 SPDL の早期試作

若鳥陸夫 (日本ユニシス)

〔概要〕 国際規格制定作業中の標準ページ記述言語 SPDL の日本語機能を事前評価するために, Prolog 言語で機能の一部を試作してみたので報告する。

◆ 第 37 回 グラフィクスと CAD 研究会

(発表件数: 11 件)

(主査: 川合 慧, 幹事: 中嶋正之, 真名垣昌夫, 守屋慎次)

日 時 昭和 64 年 2 月 23 日 (木) 午後 1 時～5 時

2 月 24 日 (金) 午前 9 時～午後 5 時

会 場 日立 中央研究所 記念館 第 2 会議室

〔国分寺市東恋ヶ窪 1-280 JR: 国分寺(北口)下車, 徒歩 7 分. Tel. 0423 (23) 1111〕

議 題 2 月 23 日 (木) 13:00～17:00 (4 件)

(1) 3次元 CG のための配色エディタ

宇佐美芳明 (日立研)

〔概要〕 3次元 CG のために、容易に調和した配色で色彩設定ができる配色エディタのプロトタイプを作成した。

(2) 画像生成システム SIG 2

安部美乃夫, 西村健二, 高畠一哉, 平井 誠, 中瀬義盛 (松下電器)

〔概要〕 汎用性を考慮した画像生成システム SIG 2 の構成、性能およびその応用について報告する。

(3) 対話的スクリプト法によるアニメーションの生成

栗原恒弥 (日立・中研), 渡辺 智 (日立超 LSI エンジニアリング)

〔概要〕 画面上の図形を直接操作することで、アニメーションのスクリプトを自動的に生成するシステムについて述べる。

(4) 日立中央研究所におけるコンピュータグラフィックスと画像処理研究

矢島章夫, 藤澤浩道, 松島 整, 江尻正員 (日立・中研)

〔概要〕 日立中研における CG/CAD, 画像処理の研究状況を紹介する。

※ 研究発表終了後、日立中央研究所のコンピュータグラフィックスおよび画像処理・理解に関連する研究施設の見学を行います。

2月24日(金) 9:00~12:00 (3件)

(5) 偏光を利用した照度差ステレオ法による面の傾き抽出法

伊東敏夫, 松本俊哲 (豊田工大)

〔概要〕 照度差ステレオ法における対象面の物理的特性を明らかにし、面の傾きを抽出する方法について提案する。

(6) 錯視現象の数理解析

大矢雅則, 長澤浩史 (東理大・理工)

〔概要〕 平面図形の幾何学的関係を客観的事実と異って知覚する現象について考察する。

(7) パターン認識の道具としてのボロノイ図構成算法の整備

杉原厚吉 (東大・工)

〔概要〕 理論的には効率が良いが数値誤差には弱い従来のボロノイ図構成算法を、数値誤差が生じても破綻しない算法への改良について述べる。

13:00~17:00 (4件)

(8) 3次元画像を利用した股関節手術計画システム

曾山 豊, 安田孝夫, 横井茂樹, 鳥脇純一郎 (名大・工)

〔概要〕 X線データを用いた股関節手術のシミュレーションシステムとその特徴について報告する。

(9) スtring マッチングを用いた高速化テンプレートマッチング方式

朱瑞 豊, 中嶋正之, 安居院猛 (東工大・像情報)

〔概要〕 入力データをStringに変換して、オートマトンによる高速テンプレートを行う手法を提案する。

(10) データ解析のための特徴空間の次元縮小の1方法

森 薫, 市野 学, 矢口 博之 (東京電機大)

〔概要〕 距離行列ならびにそれに基づいて構成された MST を併用して、次元を2に落とす研究について報告する。

(11) 一般化 Hough 変換による任意図形検出アルゴリズム

大橋靖弘, 大和淳二, 石井郁夫, 牧野秀夫 (新潟大・工)

〔概要〕 検出の基準となるパラメータを求め、原図面上のパラメータと比較することによる任意図形の検出法を提案する。

※ 今回の研究会は、電子情報通信学会 (パターン認識と理解研究会) との共催で行います。最終的な発表件数およびプログラムは、電子情報通信学会誌 1月号のパターン認識・理解研究会の会告を参照願います。

◆ 第42回 オペレーティング・システム研究会

(発表件数: 6件)

(主査: 亀田壽夫, 幹事: 川島幸之助, 黒沢 隆, 村松 洋)

日 時 昭和64年2月24日(金) 午前10時20分~午後4時45分

会 場 機械振興会館 6階 65号室 (所在は前記参照)

議 題 特集: システム性能評価

10:20~12:00 (2件)

(1) OS/omicon 第2版の実現と評価

鈴木茂夫, 田中泰夫, 岡野裕之, 堀 素史

横関 隆, 並木美太郎, 高橋延匡 (農工大・工)

〔概要〕 オペレーティングシステム OS/omicon 第2版の設計思想，構想を述べ，評価の概略を示す。

(2) カートリッジ型 MT のための予測制御型負荷均衡アルゴリズムとその評価

山本 彰，坪井俊明，北嶋弘行，難波龍雄，土井 隆（日立）

〔概要〕 カートリッジ型 MT を含む入出力データ転送路の負荷を均衡させる予測制御型負荷均衡方式とその評価を述べる。

13：10～14：50（2件）

(3) TEDAS-Q:A software package for analyzing general queueing networks

吉野秀明，片山 勁（NTT 通研）

〔概要〕 一般型待ち行列網モデルを解析するツール TEDAS-Q の主な機能，および通信網の性能評価への応用例を示す。

(4) 分散コンピュータシステムにおける複数クラスジョブの負荷分散

金 宗根，亀田壽夫（電通大・情報工学科）

〔概要〕 分散コンピュータシステムの複数クラスジョブの負荷分散アルゴリズムを求め，システムのふるまいを評価する。

15：05～16：45（2件）

(5) 大規模計算機システムの性能評価手法とその適用例

村田正幸（阪大・大型計算機センター），稲井三重（JR 西日本）

稲井 寛（神戸大・総合情報処理センター），宮原秀夫（阪大・基礎工）

〔概要〕 大規模計算機システムの待ち行列網によるモデル化とその性能評価手法について論じ，その適用例を示す。

(6) マルチプロセッサシステムの評価技法と評価システム

松岡浩司，堀川 隆，難波信治（日電）

〔概要〕 実働計算機のトレースデータを使った性能評価技法とプロトタイプによるマルチプロセッサの評価例を報告する。

◆ 第4回 コンピュータと教育研究会

（主査：有山正孝，幹事：大槻説乎，雨宮幸雄，竹谷 誠）

日 時 昭和64年2月25日（土）午前10時～午後5時

会 場 九州工業大学 情報工学科

〔飯塚市川津 680-4，JR（筑豊線）：新飯塚下車，バス：九工大行で15分。Tel. 0948（28）5551 ex. 207〕

議 題 今回は特に，知的 CAI に関する研究発表を中心にしますが，一般講演も取りあげます。なお詳細は次号（2月号）に掲載いたします。

※ CAI 学会との共催

◆ 情報基礎研究会

第13回 の研究会を来年6月に開催する予定です。テーマは“ハイパーテキスト・ハイパーメディアの是非を通じてデータをしっかり捉える”です。

昭和64年度 研究発表会4・5月開催予定

自然言語処理	5月19日（金）	日本電子化辞書
データベース・システム	5月18日（木）	情報大
知識工学と人工知能	5月18日（木）・19日（金）	機・B3-2
ソフトウェア工学	5月30日（火）	機・B3-2
マイクロコンピュータと ワークステーション	5月16日（火）	機・B3-9
計算機アーキテクチャ	5月12日（金）	機・B3-1

コンピュータビジョン	5月18日(木)	豊橋技科大
設計自動化	5月23日(火)	機・B3-2
マルチメディア通信と分散処理	5月19日(金)	徳島大
文書処理と ヒューマンインタフェース	5月15日(月)	機・B3-1
グラフィックスとCAD	5月12日(金)	東大
ソフトウェア基礎論	5月25日(木)・26日(金)	豊橋技科大(電子情報通信学会と共催)
コンピュータと教育	5月11日(木)	東京
アルゴリズム	5月22日(月)	機・B3-研1

* 各研究会に発表申込希望者は開催の3カ月前までに、研究会発表申込書(本欄末添付)を事務局研究会係までご送付ください。

注) 機一機械振興会館

創立 30 周年記念論文の公募について

情報処理学会では創立 30 周年を記念して、下記により「記念論文」を公募することになりました。会員の皆さまは奮って応募されますようご案内いたします。

1. 応募資格

情報処理学会の会員(正会員、学生会員、海外会員)であること。共著可。

2. 論文の性格と書き方

ア. 情報処理に関するオリジナルな論文であること。

イ. 論文は邦文または英文とする。

ウ. 邦文論文は「情報処理学会論文誌原稿執筆案内」、英文論文は「欧文誌 JIP 原稿執筆案内」の書き方にそれぞれよることとするが、制限ページはいずれも刷り上り B 5 判 12 ページとする。したがって英文論文の場合「欧文誌 JIP 原稿執筆案内」には“刷り上り 1 ページは、通常のテキストでは 1,000 語程度”とあるが、本記念論文の場合は 620 語程度となるので注意のこと。ただし、論文はできるだけ簡潔にまとめることが望ましい。

3. 応募方法

ア. 正論文 1 部およびコピー 5 部を提出すること。

イ. 応募論文の第一ページ標題の左肩に「創立 30 周年記念論文」と明記すること。

ウ. 締切 1989 年 8 月 31 日

エ. 送付先 〒106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル 3 F

(社)情報処理学会事務局「創立 30 周年記念論文係」

4. 応募論文の取扱い

ア. 応募論文は記念論文査読委員の査読結果に基づき、拡大論文誌編集委員会で受賞論文の候補を決定する。原則として論文を著者に照会することはしないが、受賞決定後に執筆について助言することがある。

イ. 記念論文選定委員会は 10 編を限度として受賞論文を選定する。受賞論文のうち、特に優秀なものの 3 編以内を入選論文とし、そのほかを佳作論文とする。

ウ. 選定結果は「創立 30 周年記念式典」において公表し、受賞論文の表彰をおこなう。

エ. 受賞論文は「創立 30 周年記念学会誌」に掲載し、また「1990 年後期全国大会」において講演発表する。

オ. 受賞しなかった論文は著者の希望により一般論文扱いとする。

5. 表彰

ア. 受賞論文のすべての著者に対して表彰状および記念品を授与し、受賞論文ごとに賞金を授与する。

イ. 受賞論文 1 編につき論文別刷 100 部を贈呈する。

6. その他

不明の事項については、本学会事務局に問い合わせること。

昭和 年 月 日

研究会発表申込書 (様式 4)

太線枠内のみご記入ください。

研究会名	研究会									
発表希望の 研究会開催日	昭和 年 月 日 ()									
タイトル										
発表者名 (略称所属)										
概要 (50 字以内)										
原稿用紙送付先住所	〒			Tel. — (内線)						
氏 名										

昭和 年 月 日受付

研究会名 資料 No. 開催日 幹事送付済み その他

		昭和 年 月 日		
--	--	----------	--	--

論文賞候補の論文推薦のお願い

昭和 63 年度論文賞の候補論文を推薦される会員は、下記事項を参考のうえ、論文の題名、著者名、掲載巻号、論文の専門分野、推薦理由および推薦者住所氏名を官製はがきに記入のうえ、本会論文賞係宛お送りください。

論文選定条件

1. 選定範囲および推薦数

昭和 62 年 10 月から 63 年 9 月までの間に「情報処理学会論文誌」(Vol. 28, No. 10～Vol. 29, No. 9) および「Journal of Information Processing」(Vol. 10, No. 3～Vol. 11, No. 2) に発表された論文の中から 1 編。

2. 推薦資格

本会正会員に限ります。

3. 締切日

昭和 64 年 1 月 31 日 (火)

表彰規程 (抜粋)

第 3 章 論文賞

- 第 9 条** 論文賞は、本会の機関誌に発表された論文のうちとくに優秀なものを選び、その著者に贈呈する。
- 第 10 条** 表彰する論文は、原則として毎年 4 編とするが、編数は事情により変更することができる。
- 第 11 条** 選定の対象となる論文は、表彰の時期の前前年の 10 月から前年の 9 月までの間に発表されたものであることを要する。
- 第 12 条** 表彰する論文が共著の場合は、共著者全員を表彰する。
- 第 13 条** 論文賞は、同一著者に重ねて授賞しても差支えない。
- 第 14 条** 論文賞は、賞状、賞牌および賞金とする。賞金は、論文 1 編につき 30,000 円とする。

昭和 63 年度第 30 回 臨時総会の開催について

会費改定に関し定款を改訂するため、臨時総会を下記により開催いたします。ぜひご出席ください。

なお、総会の案内状は、正会員各位に本月下旬別途郵送いたします。ご欠席の場合は、必ず委任状をご返送ください。

記

- | | |
|------|--------------------------------------|
| 日 時 | 昭和 64 年 2 月 27 日 (月) 14 : 00～15 : 00 |
| 会 場 | 機械振興会館ホール (地下 2 階) |
| 総会次第 | 1. 会長のあいさつ
2. 定款の改訂について
3. その他 |

会費および入会金の改定について

会費および入会金は、昭和 50 年度に現行の金額に改定以来、今日まで 10 数年間据置のままで参りました。この間郵便料金の値上げなど物価の上昇により諸経費が増加し、会員の増加による収入増より支出増が上廻る状況となりました。すなわち、各年度の年間収支は次第に悪化し、ついに 61 年度からは実質収支が赤字となり、63 年度予算は赤字編成となっております。

この間もとより収支の改善に取り組み、収入の増加・支出の節減に努めて参りましたが、その努力も限界に達し会費改定の止むなきに至りました。この改定は学会事業の継続のため是非とも必要なものでありますので、会員各位のご理解を賜りたく存じます。

つきましては、来る 2 月 27 日（月）に臨時総会を開催し、昭和 64 年度から下記のとおり会費等を改定いたしました。諸般の事情をご賢察いただきご了承くださいませようお願いいたします。

なお、会費等の改定理由および定款改訂案につきましては、本号巻末に掲載しましたので、ご参照ください。

記

	現 行	改 定
正会員費	7,200 円	9,600 円
賛助会員費（1 口）	30,000 円	50,000 円
学生会員費	3,000 円	4,800 円
海外会員費	5,700 円	（現行どおり）
正会員入会金	700 円	2,000 円
学生会員入会金	500 円	不 要

本誌定価および購読員登録料の改定について

本会告欄にてお知らせしたとおり、本年 4 月から会費改定の運びとなっております。

これにともない、本誌定価（一般頒布価格）および購読員登録料を、下記のとおり本年 4 月から改定いたします。

記

	現 行	改 定
学会誌「情報処理」普通号（1 冊）	1,200 円	1,600 円
国内購読員登録料	17,000 円	20,000 円
海外購読員登録料	3,000 円	（現行どおり）

昭和 64 年度会費および論文誌・欧文誌購読費について

標記につきましてはこれまで、個人会員には 1 月に、賛助会員は 3 月にそれぞれご請求し、前年度末までに納入いただくようお願いしておりましたが、本欄にて会告のとおり、昭和 64 年度からの会費改定を考慮して、臨時総会開催後の 3 月以降に新会費にて請求させていただきますのでご了承ください。

また、預金口座振替の会員も 3 月に自動振替は行わず、4 月以降に新会費にて振替えますのでご留意ください。

第 38 回 全国大会（昭和 64 年前期）概要および論文集予約

- 開催期日** 昭和 64 年 3 月 15 日(水)～17 日(金)
- 会場** 中央大学・理工学部（東京都文京区春日）
- 参加費**
- 一般参加者 大会当日会場にて受付けます（発表者を除く）。賛助会員は 1 口 1 名として正会員に準じます。
電子情報通信・電気・照明・テレビジョン各学会会員は本学会会員扱いとします。
会 員 1,000 円 非会員 2,000 円
- 論文集予約** 予約を原則とします。前号綴込みの申込書により、2 月 6 日(月)までに事務局へお申込みください。
予約価 5,000 円（定価 6,000 円）送料 950 円
（予約者以外にお頒けできるのは、大会当日残部のある場合に限りです）
- プログラム** プログラムの詳細は 2 月号に掲載されます。とくに発表者は、発表の日時につき、ご確認ください。
- 特別講演** （3 月 15 日 10:30～11:30）
「知的所有権とソフトウェア保護(仮題)」
Denis S. Karjala (Prof. of Law Arizona State Univ.)
- 招待講演** （3 月 16 日 12:30～14:30）
「Trends in Software Technology」 S. S. Yau (Prof. of Univ. of Florida)
- パネル討論** （2 件）
（3 月 15 日 12:30～14:45）
「ファジーコンピュータの展望（仮題）」（司会）広田 薫（法政大）
（3 月 17 日 12:30～14:45）
「高性能ワークステーションの将来（仮題）」（司会）石田 晴久（東大）
- 一般セッション** （論文発表申込 971 件）
- 学術奨励賞の表彰** 前回（第 37 回）全国大会学術奨励賞受賞者の表彰を本大会時におこないます。

第 39 回 全国大会（昭和 64 年後期）の開催について

昭和 64 年度秋の第 39 回大会は下記により開催される予定です。大会実施要領は 3 月号本欄に掲載されますので、ご留意ください。

日時 昭和 64 年 10 月 16 日(月)～18 日(水)

場所 九州工業大学工学部（北九州市戸畑区仙水町）

「CASE 環境シンポジウム」開催について

標記シンポジウムに関して、多数の論文をご応募いただき、誠にありがとうございました。論文審査の結果、下記要領でシンポジウムを開催しますので、多数の方々のご参加をお願いいたします。

記

日 時 昭和 64 年 3 月 2 日(木)、3 日(金) 9:00~17:00
場 所 機会振興会館大ホール(地下 2 階)
参 加 費 会員 10,000 円、非会員 15,000 円、学生 1,500 円(論文集のみ 3,000 円、送料 400 円)
申込締切 昭和 64 年 2 月 15 日(水)(定員 150 名になり次第、締切ります)

——プログラム——

第 1 日(3 月 2 日(木))

招待講演(9:00~10:00)

- CASE 環境の現状と動向 藤野 喜一(日電)

——休憩(10:00~10:10)——

セッション 1 プロセスモデル(10:10~11:55)

座長 永田 守男(慶大)

- ソフトウェア開発環境定義用スクリプトの生成法について
萩原 剛志, 飯田 元, 井上 克郎, 鳥居 宏次(阪大)
- ソフトウェア仕様を対象としたプロセス代数
大槻 繁, 中野 利彦(日立)
- ソフトウェアエンジニアリングデータベースにおけるセマンティックデータモデルについて
松本 吉弘(東芝)

——昼食(11:55~12:45)——

セッション 2 視覚化・図式表現(12:45~14:30)

座長 橋本 恵二(富士通)

- New-SWB におけるビジュアルプログラミングの検討
建部 周二, 藤本 繁喜, 内金崎誠一, 山本 修一(東芝)
- ソフトウェアの基本設計と図式エディタ PAN
塩見 彰睦, 河合 和久, 大岩 元(豊橋技科大)
- ソフトウェア要求定義支援技法/環境: Card

大西 淳, 阿草 清滋(京大), 大野 豊(京都高度技研)

——休憩(14:30~14:40)——

セッション 3 統合環境(14:40~17:00)

座長 松村 一夫(東芝)

- CASE 環境構築のためのファイル管理機能
岸 知二, 入交 晃一, 坪谷 英昭(日電)
- ソフトウェア開発支援システム SDSS
藤井 諭, 上田 謙一(松下電器産業), 清岡 弘(松下通信)
- 通信ソフトウェア開発用統合環境
深尾 至, 西山 好雄, 豊島 康文, 藤本 洋(富士通)
- 統合化 C プログラミングシステムの実現
西岡 健自, 平田陽一郎, 井上 健, 岡垣 弘美, 杣 崇子(横河電機)

第 2 日(3 月 3 日(金))

招待講演(9:00~10:00)

- ワークステーション時代のビジュアル 4 GL: スペース
原田 実(電力中研)

——休憩(10:00~10:10)——

セッション 4 解析・検証(10:10~11:55)

座長 紫合 治(日電)

- プログラム構造設計の自動化について
橋本 正明(ATR)

●モジュール化されたソフトウェアに対する要求仕様記述とその検証法

山田 宏之(愛媛大), 松下 芳豊(野村総研), 井上 健(神戸商船大)
手塚 慶一(阪大), 高松 雄三(愛媛大)

●プログラム開発環境 dm CASE における解析環境

松浦佐江子, 大林 正晴(管理工学研)

——昼食 (11:55~13:00)——

セッション5 並列・リアルタイム処理 (13:00~14:45)

座長 等々力正文(鉄道総研)

●Monitoring Concurrent Systems: A Survey

牛島 和夫, 程 京徳(九大)

●リアルタイム用ソフトウェア開発環境の一提案

福岡 康夫(新日鉄)

●通信ソフトウェア仕様の簡明化処理

若原 恭, 伊藤 篤, 宇都宮栄二(KDD)

——休憩 (14:45~15:00)——

パネル討論 (15:00~17:00)

司会 花田 収悦(NTT)

●CASE 環境の夢物語 —革新的将来像—

パネリスト

阿草 清滋(京大), 落水浩一郎(静岡大) 中田 修二(Σ本部)

玉井 哲雄(三菱総研)

「CASE 環境」シンポジウム

参加申込書

1989 年 月 日

申込者 氏名 _____ 会員 No. _____

連絡先(住所, 会社名, 所属) 〒 _____

_____ Tel. _____

標記シンポジウムの参加を下記によって申し込みます。

○参加費(該当するものを○印でかこむ)

正会員, 賛助会員 10,000 円 非会員 15,000 円 学生会員 1,500 円

○論文集のみ(3,000 円, 送料 400 円) 冊

○送金方法

_____円を_____月_____日送金します。(金額, 送金月日を記入のうえ該当する送金方法を○印でかこむ。)

a. 現金書留(送金先 〒106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル (社)情報処理学会シンポジウム係)

b. 銀行振込(いずれも普通預金口座)

第一勧銀虎ノ門支店 1013945

富士銀行虎ノ門支店 993632

三菱銀行虎ノ門公務部 0000608

三井銀行本店 4298739

住友銀行東京公務部 10899

三和銀行東京公務部 21409

名義人 東京都港区麻布台 2-4-2 社団法人 情報処理学会

請求書類の必要な方はお申出ください。

(No.)

請求書

通, 見積書

通, 納品書

通

請求先

注) 申込書は1枚1人としてください(この用紙のコピーで可)。

「データベースシステムの高度応用に関する国際シンポジウム」 開催について

標記国際シンポジウムをソウルで開催いたしますので、皆さま奮ってご参加ください。本シンポジウムは環太平洋地域を中心として今後も定期的開催される予定です。第1回の今回はオリンピックを機に大きく発展しようとしている韓国での開催です。日本からは旅費も少額で済みますので、この機会に近隣諸国との技術交流を図っていただけますようお願いいたします。

名 称	International Symposium on Database Systems for Advanced Applications	
主 催	Korea Information Science Society (KISS) (社)情報処理学会 (IPSJ)	
協 賛	IEEE Computer Society	
会 期	1989年4月10日(月)～12日(水)	
会 場	タワーホテル (韓国ソウル)	
主な委員	名誉委員長	KISS 会長 Chul-Hee Lee
		情報処理学会会長 大野 豊
	シンポジウム委員長	Suk-Ho Lee (韓国ソウル大学)
		國井秀子 (リコー)
	プログラム委員長	Won Kim (米国 MCC)
	プログラム副委員長	In-Sup Paik (韓国 DACOM)
		上林弥彦 (九州大学)
	組織委員長	Yoon-Joon Lee (韓国 KAIST)
		黒川恒雄 (工学院大学)
	財務	Seog Park (韓国ソガン大学)
		石井義興 (ソフトウェア・エージェンシー)

プログラム概要 (予定)

4月10日

チュートリアル1…Gio Wiederhold (スタンフォード大学)
The Architecture of a System That Extracts Knowledge from Data
チュートリアル2…田中克己 (神戸大学)
Object Oriented Database Systems

4月11日

オープニング
セッション1 a…User Interfaces
セッション1 b…Advanced Data Models
セッション2 (パネル) …Impacts of Advanced Applications on Databases
セッション3…Advanced Applications
セッション4 a…Knowledge Based Systems
セッション4 b…System Implementation I
バンケット

4月12日

セッション5 a…Object Oriented Databases
セッション5 b…Query Processing Architecture

セッション 6 a …High Performance Systems
 セッション 6 b …Recursive Query Processing
 セッション 7 a …Multimedia Database Systems
 セッション 7 b …System Implementation II

a と b はパラレルセッションとなります。

ツアー 4月10日に韓国民俗村へのバスツアーを予定しております。李朝時代の建物や生活風俗を再現したものです。参加費は2,500円程度になります。

参加費 技術セッション 5,000 円, バンケット 10,000 円
 チュートリアル (一般) 10,000 円, チュートリアル (学生) 4,000 円

申込締切 1989年2月28日
 3月1日以降の申込みにつきましては、現地に当日料金をウォンで支払っていただくことになります。また、宿泊の予約をご希望の方は、1月31日までできるだけ早くご連絡ください。タワーホテルにはダブルとツインの部屋があり、ダブルの場合1泊9,000円程度になります。

申込み・問合せ先

112 東京都文京区小石川 1-1-17
 (株)リコー ソフトウェア研究所
 金崎克己
 Tel. 03 (815) 7261, FAX 03 (818) 0348, E-mail kana@src. ricoh. junet

「データベースシステムの高度応用に関する国際シンポジウム」参加申込書

年 月 日

申込者 氏名 _____ 氏名の英字表記 _____

連絡先 (住所, 会社名, 所属) 〒 _____

_____ Tel. _____

連絡先の英字表記 _____

標記シンポジウムの参加を下記によって申し込みます。

● **参加費** (該当する欄にチェック)

- ☐ 技術セッション 5,000 円
☐ バンケット 10,000 円
☐ チュートリアル (一般) 10,000 円
☐ チュートリアル (学生) 4,000 円

● **ツアー** ☐ (参加する場合はチェック)

● **ホテルの予約** (希望する場合は宿泊期間と部屋の希望を記入)

● **送金方法** (金額, 振込月日を記入)

_____ 円を _____ 月 _____ 日, 下記銀行口座に振込みます。

三菱銀行 春日町支店 普通預金口座 062-0329033

口座名 DASFAA 國井秀子

請求書類の必要な方はお申出ください。

(No.)

請求書 通, 見積書 通, 納品書 通
 請求先 _____

注) 申込書は1枚1人としてください (この用紙のコピーで可)。

「数値解析シンポジウム」の講演申し込みのお知らせ

今年度のシンポジウムは、下記の予定で開催します。ふるってご参加をお待ちしております。今回も例年どおり、身近な問題から最新の話題まで、幅広い分野での講演申込をお待ちいたしております。

参加と講演を希望される方はお申し込みください。申し込み締切りは**3月31日**とします。講演する方は、その要旨をB5判、4枚程度に清書して、**4月30日（必着）**までにお送りください。そのままコピーして予稿集を作成します。

記

会 場：早稲田大学追分セミナー・ハウス
Tel. 軽井沢 0267 (45) 1502
長野県軽井沢町大字追分字浅間山 1448-4
期 日：昭和64年6月9日(金), 10日(土), 11日(日) の予定
費 用：1泊3食付き 6,000 円程度

第 18 回 数値解析シンポジウム参加・講演申し込み（3月 31 日締切）			
氏 名		所 属	
連 絡 先	〒 Tel FAX		
参加の形態	9 日 1 泊, 10 日 1 泊, 2 泊	講 演	する, しない
講 演 題 目			
希望日, 時	分間	日	午前 午後
大 要			
申し込み先 及び 予稿宛先	〒160 東京都新宿区大久保 3-4-1 早稲田大学理工学部数学科 中島勝也 FAX 03-200-2567 数学科 中島勝也 BITNET NAKASIMA@JPNWASOO JUNET a19@wucc		

第1回 演繹・オブジェクト指向データベース国際会議

The First International Conference on Deductive and Object-Oriented Databases (DOOD 89)

- 主催** (社)情報処理学会 (IPSJ)
(財)京都高度技術研究所 (ASTEM RI/Kyoto)
- 後援** ECRC, ICOT, INRIA, MCC
- 協賛** ACM SIGMOD, IEEE CS 等
- 日程** 1989年12月4日(月)～6日(水)
- 場所** 京都市サテライトパーク, サイエンスセンタービル内会議場
- 主旨** 最近, 次世代のインテリジェントデータベースを構築するための強力なデータベースの骨組みを与えるために, オブジェクト指向のパラダイムとルールに基づく演繹システムの融合をめざす研究の必要性が叫ばれ, その研究が盛んになりつつある. そこで, この問題だけにテーマを絞った国際会議の第1回を日本で開催する運びとなった. テーマとしては下記のものを含むが, これらだけに限ってはいない (ただし, DOOD は演繹・オブジェクト指向データベースの略である).
- 論理とオブジェクトパラダイムの融合
 - DOOD とプログラミング言語の融合
 - DOOD における人工知能技術
 - オブジェクト指向概念の形式化
 - 並列論理型/オブジェクト指向プログラミング
 - DOOD における問合せ言語および問合せ最適化
 - DOOD システムに対する高級ユーザインタフェース
 - 実 DOOD システム
 - DOOD システムの応用
 - DOOD における一貫性制約
 - DOOD システムの性能評価
- 主な委員**
- 会議委員長 大野 豊 (情報処理学会会長, 京都高度技術研究所所長)
- 運営委員会委員長 Jack Minker (米国メリーランド大)
- プログラム委員会:
- アメリカ地区委員長 Won Kim (米国 MCC)
- ヨーロッパ地区委員長 Jean Marie Nicolas (西ドイツ ECRC)
- 極東地区委員長 西尾章治郎 (大阪大)
- 実行委員会委員長 牧之内顕文 (富士通研)
- 組織委員会副委員長 上林 彌彦 (九州大)
- 論文送付先** 日本の方は下記に5部お送りください.
- 560 豊中市待兼山町 1-1 大阪大学基礎工学部情報工学科
西尾章治郎 (Tel. 06 (844) 1151 (内) 4826, FAX 06 (853) 5747)
- 期 日** 論文締切 (英文ダブルスペース 20 頁以内, 1989年5月1日)
- 採録通知 (1989年8月1日)
- 最終論文原稿締切 (1989年9月25日)
- 事前参加登録締切 (1989年11月1日)
- 問合せ先** 600 京都市下京区中堂寺南町 17
- 京都市サテライトパーク サイエンスセンタービル
(株)サイエンス・インターナショナル (SCI)
宮崎 郁子 (Tel. 075 (322) 7888 (代), FAX 075 (322) 5348)

人文科学とコンピュータ研究会発足のお知らせ

目 的

近年にいたりコンピュータはさまざまな分野と係わりをもつようになり、コンピュータの応用分野が拡大すると共に、情報処理の新たな展開が期待されている。特に、これまでは機械とか数理といったものから最も縁遠い分野とされていた歴史、考古学、民族学、文学、社会学、宗教、哲学、美術などの人文科学系とか博物館、美術館においてもコンピュータを積極的に使おうとする機運が高まってきた。また一方では、コンピュータの多様な応用利用にともなう社会的インパクトも随所で議論されている。

人文科学系では思弁的作業が大きな比重をめていること、処理が定型的ではなく個別にすすめられること、利用者主導の立場がなによりも重要であること、取り扱う情報やその媒体と処理が極めて多岐にわたるなど、情報处理的には高度で多分野の技術が要求され、情報処理の専門的立場からの体系的かつ本格的な取り組みが必要である。また、人文科学系に属する諸学間分野と情報処理分野の専門家たちによる幅広い交流が基本ともなっていること、これらの応用コンピュータシステムは、開発者主導である現状に対して、利用者主導の立場を重視していることなどは、情報処理の学術・技術のあり方に対しての大きな問題提起でもある。

以上のとおり、情報処理、コンピュータを人文科学系に応用するための学術・技術的究明は人文科学系の学問の発展に役立つだけでなく、情報処理、コンピュータ技術の応用拡大や基本課題の発掘・解明に貢献するところが大きいことと、専門家間の交流の機運の高まりを考慮して、コンピュータと人文科学の接点を重視した新しい研究会を発足させることとなった。

多数の会員の参加と積極的な研究会活動を期待するものである。

主要な研究分野

1. 人文科学、博物館・美術館への情報処理、コンピュータの応用要素と実現技術。その概念、モデル、ハードウェア、ソフトウェア、実現事例など。
2. 人文科学系ユーザにとって柔軟なユーザ・インタフェースの実現要素と技術。その概念、モデル、要求分析の方法、ハードウェア、ソフトウェア、評価方法、実現事例など。
3. 情報処理と人文科学系間での学際的協力。その方法、評価方法、事例など。
4. コンピュータ、情報処理の社会的側面。理工学的・社会科学的解明についての基礎と事例など。

提 案 者 (五十音順)

井口征士 (阪 大)	植村俊亮 (農工大)	浮田輝彦 (東 芝)
江口一久 (民 博)	及川昭文 (国立教育研)	小沢一雅 (大阪電通大)
北風晴司 (日 電)	坂本恭章 (東京外大)	新美康永 (京都工芸繊維大)
杉田繁治 (民 博)	田中 琢 (奈良国立文化財研)	照井武彦 (歴 博)
徳永幸生 (NTT)	長瀬真理 (東京女子大)	八村広三郎 (京 大)
早川聞多 (国立国際日本文化研究センター)		星野 聡 (京 大)
洪 政国 (日本IBM)	梶形公也 (大阪教育大)	松田芳郎 (一橋大)
松本浩一 (情報大)	八重樫純樹 (歴 博)	安永尚志 (国文学研究資料館)
山本毅雄 (情報大)		

支 部 だ よ り

中 部 支 部

講 演 会

日 時 昭和 64 年 2 月 17 日 (金) 13 : 15 ~ 15 : 00
 会 場 富山大学工学部 (富山市五福 3190)
 演 題 新形態プログラミング 二木 厚吉 (電総研)
 参 加 費 無 料 (参加資格は問いません)
 問合せ先 富山大学工学部電子工学科 米田政明 Tel. 0764 (41) 1271

日 時 昭和 64 年 2 月 17 日 (金) 14 : 00 ~ 16 : 00
 会 場 信州大学工学部 (長野市若里 500)
 演 題 ソフトウェア開発プロセスのモデル化とその自動化支援 岸田 孝一 (SRA)
 参 加 費 無 料 (参加資格は問いません.)
 問合せ先 信州大学工学部 海尻賢二 Tel. 0262 (26) 4101

日 時 昭和 64 年 2 月 25 日 (土) 15 : 00 ~ 17 : 00
 会 場 名古屋大学工学部 8 号館南館 2 階 情報工学科大学院講義室
 演 題 A Theory for Nondeterminism, Parallelism, Communication and
 Concurrency (仮題) Prof. Dr. Manfred Broy (Passau 大)
 参 加 費 無 料 (参加資格は問いません.)
 問合せ先 情報処理学会中部支部 Tel. 052 (781) 5111 (内 5803)

関 西 支 部

セミナーの開催について

「AI とヒューマンインタフェース」をテーマとして、下記によりセミナーを開催します。多数の方々のご参加をお願いします。

日 時 昭和 64 年 1 月 18 日 (水) ~ 19 日 (木) 10 : 15 ~ 17 : 00
 会 場 大阪倶楽部 (大阪市東区今橋 5-11)
 参 加 費 18,000 円
 申 込 先 530 大阪市北区梅田 1-20 大阪駅前第 1 ビル 8 階
 (財)関西情報センター 気付 情報処理学会関西支部 Tel. 06 (346) 2543
 プログラム 詳細は前号本欄参照

第 2 回 ソフトウェア研究会

日 時 昭和 64 年 2 月 9 日 (木) 13 : 10 ~ 17 : 00
 会 場 (財)関西情報センター 会議室

プログラム	汎用機と EWS の機能分散と UNIX システム/370 での UNIX (仮題) A-UX ACOS-6 マシン上での実現 (仮題) HI-UX/M の技術紹介 (仮題) UTS—メインフレーム UNIX— (仮題) 総括討論	下條 真司 (阪 大) 田村 和男 (IBM) 津村 和秀 (日電ソフト) 井村 淳一 (日 立) 工内 隆 (富士通)
問合せ先	情報処理学会関西支部 (前記参照)	

中国四国支部

1990 年代を支える製造業のイノベーション講習会 —ソフトウェアと通信技術の観点から—

近年、製造業をとりまく厳しい環境の中で、製造分野のイノベーション、とりわけソフトウェアと通信技術のイノベーションの重要性がますます認識されています。そこで、実際にこの分野の最先端で活動されている方々を講師に招き、CIM を中心とした最新の動向とそこに潜む諸問題を洗い出し、明日の製造技術の方向を示していただくことにしました。質疑応答の時間を十分にとり、解決すべき問題の核心にせまる実りある講習会にいたしたいと存じますのでふるってご参加ください。

日 時	昭和 64 年 2 月 14 日 (火) 9:00~17:00
会 場	産業技術交流センター 多目的ホール (広島市中区千田町 3 丁目 7 番 47 号)
定 員	150 名
参 加 費	会員 (賛助会員を含む) 10,000 円, 非会員 12,000 円いずれも資料 1 冊代金を含む。
資 料	資料のみ, または聴講者で 2 冊以上ご希望の場合, 1 冊 3,000 円
申込締切	昭和 64 年 2 月 10 日 (金)
申込方法	下記の申込書にご記入のうえ, 参加費を添えてお申込みください。
送金方法	現金書留または銀行振込 振込先/精密工学会中国四国支部あて, 広島銀行西条支店, 普通預金 口座番号 051-1-0863238
申 込 先	724 東広島市西条町下見 広島大学工学部第一類内 精密工学会中国四国支部 Tel. 0824 (22) 7111 (内3263)

プログラム

CIM をめぐる諸問題 (9:00~10:00)	岩田 一明 (神戸大)
ここまで来た CAD, CAE —実践の立場から— (10:00~11:00)	岡田 吉諄 (マツダ)
生産スケジューリングの新しい課題 (11:00~12:00)	大場 史憲 (広島大)
CIM における新しい NETWORK 技術 —産業用 RAN と光 MAP— (13:00~14:00)	今井 元 (住友電工)
生産現場の通信革命 —NC ソフトウェアと MAP— (14:00~15:00)	大島 道隆 (三 菱)
生産現場の通信革命 —産業用ロボット— (15:00~16:00)	毛利 峻治 (日 立)
質疑応答 (16:00~17:00)	

1990 年代を支える製造業のイノベーション講習会申込書

氏 名 _____ 年 月 日
勤務先 _____

名 称	
所 属	
所 在 地	
電 話 番 号	

送金方法 現金書留 銀行振込 (○印でお示ください)

本 会 協 賛 等 の 行 事 案 内*

- 第 39 回システム制御情報講習会「次世代 FA 技術の基礎と最新応用事例」
昭和 64 年 2 月 9 日 (木)～10 日 (金) 大阪・なにわ会館
昭和 64 年 2 月 15 日 (水)～16 日 (木) 東京・ダイヤモンド社
- 講習会「インテリジェントセンサの使い方・作り方」
昭和 64 年 2 月 14 日 (火) 東京工業大学百年記念館
- 「医療における画像ファイルシステム」シンポジウム
昭和 64 年 2 月 28 日 (火) 東京・野口英世記念会館
- ’89 スイッチング電源システムシンポジウム
昭和 64 年 2 月 28 日 (火)～3 月 3 日 (金) 東京・サンシャインシティコンベンションセンター
- ボード・コンピュータ ’89
昭和 64 年 3 月 7 日 (火)～9 日 (木) 東京・テオーシー
- * 詳細は本号会議案内欄参照